

劇症肝炎に対する生体部分肝移植の1例

田中 崇*	竹山 康章*	乗富 智明**
猪俣絵里子***	喜多村祐次***	田中 経一***
猪俣慎二郎*	花野 貴幸*	平野 玄竜*
上田 秀一*	森原 大輔*	松本 照雄*
中根 英敏*	西澤 新也*	阿南 章*
西村 宏達*	横山 昌典*	入江 真*
岩田 郁*	釈迦堂 敏*	早田 哲郎*
山下 裕一**	白日 高歩**	向坂彰太郎*

* 福岡大学医学部第三内科

** 福岡大学医学部第二外科

*** 福岡大学医学部救命救急医学

要旨：今回我々は劇症肝炎に対する生体部分肝移植術を経験したので報告する。患者は30歳の女性で出産後に発熱を来たしアセトアミノフェン内服後、皮疹その後黄疸を認め急性肝炎の診断にて当院入院となった。第7病日に肝性脳症（Grade III）を来たし劇症肝炎と診断、血漿交換・ステロイドパルス療法・持続血液濾過透析といった内科的治療を開始したが改善なく、第9病日に肝移植の適応ありと判断した。このため第11病日に当院にて夫をドナーとした生体部分肝移植術を施行した。術後第6病日に覚醒し、術後第21病日・27病日に急性拒絶反応を来したがステロイドリサイクル療法にて改善、術後第73病日に軽快退院となった。近年劇症肝炎における内科的治療での救命率は向上しているが、本例の様な予後不良例では予後予測式や肝移植適応ガイドラインに順じ肝移植の適応を早期に見極めることが重要であると考えられた。

キーワード：劇症肝炎、予後予測式、肝移植適応のガイドライン、生体部分肝移植、急性拒絶反応